

令和7年度 第2回石狩市教育委員会叢書発刊編集委員会 議事録

要点筆記

■日時：令和8年1月15日（木）13時～14時30分

■場所：石狩市民図書館 視聴覚ホール

■出席者：下記表のとおり

委員		事務局	
役職	氏名	所属	氏名
委員長	田岡 克介	社会教育部市民図書館館長	伊藤 学志
委員	石橋 孝夫	社会教育部市民図書館副館長	工藤 一也
委員	村山 耀一	社会教育部市民図書館主任	吉岡 律子
委員	三島 照子	社会教育部市民図書館主事	有好 一晟
委員	志賀 健司		
委員	工藤 義衛		

■傍聴者：なし

次第1 開会

【事務局（工藤副館長）】

本日は大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

ただ今より、叢書編集委員会を開催いたします。

それでは、令和7年度第2回の委員会開催にあたりまして、委員長よりご挨拶をお願いいたします。

次第2 委員長挨拶

【田岡委員長】

皆様、明けましておめでとうございます。昨年は当編集にあたりまして、ご尽力いただいたことに感謝を申し上げます。また、お休みの期間中も含めて、おそらく図書館職員の皆さんには大変ご苦勞をおかけしたかと思っております。重ねてお礼を申し上げたいと思います。

最終校の段階になり、今日の編集委員会を迎えましたが、意見のすり合わせや調整をしなければ次の段階に進まない、という課題がございましたので、年明け早々にご案内いたしました。その他の案件も含め、良い打ち合わせができたらと思っております。

【事務局（工藤副館長）】

次に議事録についてです。本委員会は審議会の位置づけとなっておりますことから、議事録を石狩市ウェブサイトに掲載することとなっております。引き続き、要点筆記により取り続けていきたいと考えておりますが、問題ないでしょうか。

【全委員】

異議なし。

【事務局（工藤副館長）】

それでは、これ以降の議事につきまして、田岡委員長よろしく申し上げます。

次第3 議題(1) 石狩叢書第4巻の全体構成について

【事務局（工藤副館長）】

議題(1) 石狩叢書第4巻の全体構成についてご説明いたします。皆様には、第1校、第2校とチェックをしていただきましたが、地図の関係等最終的な意思統一を図りたいと考えております。吉岡より、第2校までの進捗状況と確認事項をご提示いたしますので、前方のスクリーンをご覧くださいと思います。

【事務局（吉岡主任）】

私の方から第2校までの進捗状況の説明とご相談をさせていただきます。まず、お手元の叢書の校正のものにつきましては、皆様から第2校でいただいたものを、参考資料として戻した状態です。今スクリーンに映しているのは、皆様から頂いた内容を集約し業者に提出した、最新のものとなっております。頁の初めから順番にご相談させていただきたいと思います。まず、最初の頁の、地図上の安瀬と篠路の関係についてです。志賀委員の原稿に登場していたので検討したところ、「至 安瀬」と記載すると道路の表示のようになってしまうことから、「方面」とさせていただきました。また、篠路については、別の箇所から「篠路」の記載があり、一つに絞らせていただきます。また、茨戸油田の範囲の表示、新川の位置、「小樽市」の表記のサイズなど細かい箇所もございます。一番大きい箇所が送油管のルートになるのですが、赤色の線が元々の第1校の時点のもので、皆様からの意見をいただいて、新たに黄色い線のルートに変更して良いかどうかを確認させてください。それに伴い、石狩八幡小学校の位置については、赤と黄色の線より右側にあるのを、黄色い正しい油送管のルートより左側になる形でよろしいでしょうか。意見が無ければこの形にしたいと思います。

【田岡委員長】

「篠路」の字はその色でよろしいのでしょうか。

【事務局（吉岡主任）】

この地図は私たちの編集用になっているので、実際には青色になるかと思えます。

【田岡委員長】

黄色い線も見づらいですね。あと棧橋が地図に載っていないです。

【事務局（吉岡主任）】

縮尺の関係もあり、一つの場所に集中しすぎてこれ以上は入らないです。

【志賀委員】

棧橋が確かどなたかの原稿の地図に記載されていました。

【田岡委員長】

棧橋や集荷場、軌道車のターンする箇所もありました。

【三島委員】

岩本さんのイラストを入れなくて良いのでしょうか。

【田岡委員長】

確かにそれがあれば少なくとも軌道車のターンするエリアが分かります。

これは既に入っていました。

岩本さんの軌道車がUターンする図は入れましたか。

【事務局（吉岡主任）】

送っています。

地図はこのルートに決定してよろしいでしょうか。

【三島委員】

石狩東小学校の表示はその場所で良いのでしょうか。

【事務局（吉岡主任）】

文字は移動します。周辺も文字を移動し分かりやすくします。

【志賀委員】

細かい所になりますが、「来札」の表示については、括弧を取り外すのでしょうか。

【事務局（吉岡主任）】

今の時点では、現在の地名と昔の地名が混在したまま、括弧を無くした構図になっています。

【志賀委員】

一般の視点からだ「来札」がわからないと思いますので、それが普通の地名として並んでいることが疑問です。馴染みのない地名がいくつもあることを危惧しています。国土地理院に掲載しているかどうかなどを基準にすれば良いのではないかと思います。

【工藤委員】

現在の地番があるかないか、住所表示を使っているか否かということではなく、メジャーで地図に載っているものと、そうでないマイナーなものを、何らかの形で区別をつけた方が良いと思います。

【志賀委員】

同じ意見です。普通、「来札」という言葉は使わないかと思います。

【三島委員】

色を変えるのはどうでしょう。括弧付けでも良いと思います。
石狩の地名としては「来札」は無くなったのでしょうか。

【工藤委員】

地番はついています。

【三島委員】

それなら括弧を取って「来札」だけで良いと思います。

【石橋委員】

市の担当に地番などを確認したらどうでしょうか。

【事務局（工藤副館長）】

確認します。

【事務局（吉岡主任）】

この地図についてですが、業者に縮尺表示を入れるよう頼んでいます。3巻で北海道の全域地図を掲載しているので、それと同じものを付けてもらいます。
送油管ルートは問題ないでしょうか。

【田岡委員長】

結局軌道車のルートはどうになりましたか。

【事務局（吉岡主任）】

ここでは載せていないです。

【村山委員】

パイプラインの赤い線は修正したのでしょうか。

【事務局（吉岡主任）】

黄色い線にしたいと思っております。

黄色のルートに確定してよろしいでしょうか。

【全員】

異議なし。

【田岡委員長】

もう一度校正はあるものの、実質これが最後になるのでしょうか。

【事務局（吉岡主任）】

はい、細かいところの調整のみで、大きくページの枚数を変更するのは難しいです。

【事務局（工藤副館長）】

今税務課に確認したところ、「来札」も「春別」も地番は残っているとのこと。

【三島委員】

括弧無しで決定ですね。

【村山委員】

軌道、というよりはガソリンカーはどこから出ていますか。

【事務局（吉岡主任）】

田岡さんの原稿の、元々手書きしてくださったイラストの中で触れようと思っております。

【村山委員】

田岡さんの地図と見比べると少し異なります。

【事務局（吉岡主任）】

では、送油管のルートは変更を加えておきます。

次に、目次についてのご相談です。3巻では「章」の次の項目が漢数字でした。先日委員長とお話しした際には、無くても良いのではないかという方向性になりました。

【志賀委員】

3巻の形ですと、1章、2章という単位と、その章の下の階層の「一、二、三」という形になっていますが、混乱しやすいので、この細かい「一、二、三」はない状態、あるいは「A、B、C」のように「一、二、三」とは別のものにすれば良いのではないかという話もありました。

【田岡委員長】

気になったこととして、今回の文章については、中身が順番通りではなくランダムに入っているため、「一、二、三」というよりは、一つひとつが独立したような形で作る感覚でした。

【三島委員】

詰めるところを詰めて綺麗にしたら、「一、二、三」は無くても平気かと思えます。

【田岡委員長】

それと同時に、最初に書き手の名前を書かないと、どこから始まっているのかよくわかりません。突然テーマも変わり、内容も違います。書き手によって仕分けされていることは間違いないですが、テーマもバラバラになることから、非常に目次が作りづらいです。

【村山委員】

何も無いのは物足りないので、上に中黒を付けたらどうでしょう。

【事務局（吉岡主任）】

1行1マス分ぐらい下げて中黒を付けてみます。

では次に、田岡さんの原稿に関してです。大正5年の地図を1ページ分使用する等の大きな変更がありました。

【村山委員】

地図が横になっているので、方位を入れたらどうでしょう。

【志賀委員】

そもそも通常通り北を上にして掲載するのはどうでしょうか。

【事務局（吉岡主任）】

原稿の中で触れている地名等が入っているので、それらを視認できる最小限のサイズにしています。これを通常の向きで本に入れると、さらに小さくしなければならなくなり、おそらく文字が読めなくなるのではないかと懸念しています。

【事務局（工藤副館長）】

2頁にまたがって掲載するのはどうでしょうか。

【事務局（吉岡主任）】

2頁ですと、どうしても頁の部分にまたがってしまうことで、真ん中の部分が読み取れなくなってしまったため難しいと編集業者から言われました。

続いて、皆さんにお配りしているのが、三島委員にインタビューしていただいた方の1人で、手稲郷土史研究会の鈴木さんの原稿です。皆さんに原稿をお渡ししたところ、鈴木さんから差し替えの希望があり、新たに原稿を作成されました。浜益雄冬での幼少期に関する記述があった後、鈴木さんの経歴が中心になっているので、油田のことについては触れられていません。いただいた原稿をそのまま載せるような形で良いか、後半部分を割愛するかについて検討したいです。ご本人からは、構成や編集は自由にして構わないとのことでした。

【田岡委員長】

載せてあげたい気持ちは山々ですが厳しいと思います。

【村山委員】

私はこの地図の近くに住んでいたのを見るとわかるのですが、2つの地図が合体していて、初めて見る方はわからないかと思えますので、左右に離れた方が良いと思います。また、右の地図で、四角で囲んだ「軽川市街地」の記載がありますが、書かれている場所が黒く塗られた市街地から外れて原野にあるので、分かるように場所を変えた方が良いと思います。他にも「軽川駅」が書かれていますが、わかりやすいように矢印で示す等をしないと難しいと思います。

【田岡委員長】

これは何かをコピーして上から手書きしたものですよね。

【事務局（吉岡主任）】

これ自体は鈴木さんが作成したものなので、こちらで編集することは難しいです。もし行くとすれば、例えば矢印を入れる等をして、ご報告するという形は取れるかと思います。

【村山委員】

左の地図のみにするのはどうでしょうか。向きを変えれば良いのではないかと思います。内容も同じような地図なので1枚にした方がよりすっきりするのではないかと思います。

【事務局（吉岡主任）】

おそらくそれ自体は可能だと思うので、鈴木さんにお伝えして、上の地図と揃えるような形でお伝えしてみます。

【村山委員】

付け加えるのであれば、石狩線に「至石狩」と記載するなど、石狩の方角が分かるような形で記載すれば良いと思います。

【事務局（吉岡主任）】

上と下が揃えば、石狩の場所は分かると思います。左の地図だけにして向きを変える方向で鈴木さんに話をしてみます。

【村山委員】

鈴木さんの原稿を全体的に見ますと、前半はもちろん大事で重要ですが、後半はやはり関係ないと思います。鈴木さんが雄冬で生まれ育ったこと、満州に渡ったこと等はプロフィール文にあります。後半は関係ないので割愛して良いと思います。

【田岡委員長】

そのまま何かに活かさないでしょうか。

【事務局（吉岡主任）】

例えば、「浜益雄冬は留萌管内増毛町との境界線上にあり、」からの3行を頭に持ってくるのも良いと思います。それ以降は割愛で良いのではないのでしょうか。

【田岡委員長】

良いと思います。

【事務局（吉岡主任）】

ではその旨、私からお伝えします。

次に、執筆者の順番について、あいうえお順でいかがでしょうかと記載したのですが、他の方から、記載してある数字の順番に田岡委員長、三島さんと続き、坂本さんを執筆者に追加して、7番に山田先生という形にしたのですが、問題なければこの順番にしたいと思います。

【田岡委員長】

山田先生の扱い方が気になります。別格の関係者として冒頭に持ってきたらどうでしょうか。

【志賀委員】

山田先生を1番にするのは違うと思います。どちらかというと最後の方が良いと思います。山田先生自身、それほどメインで書いていないという考えでしょうし、それを最初に持ってこられるとプレッシャーに感じるのではないかと思います。山田先生を特別枠とする考えであれば最後が良いかと思います。それか割り切って五十音順にするか、文中に出てきた順にするのが無難に感じます。

【三島委員】

出てきた順だと分かりやすいと思います。

【田岡委員長】

あいうえお順も分かりやすいかと思います。
順番については説明を入れる必要は無いですね。

【事務局（吉岡主任）】

あいうえお順だと山田先生は最後です。

【工藤委員】

筆者の掲載順については、五十音等のルールの方が、整理がつけやすく文句も出づらいと認識しています。志賀委員がおっしゃるように、ある程度特別な位置にするのであれば、五十音だと一応並びとしては最後です。もっとも目に付く場所は最初か最後なので、それで良いのではないかと思います。五十音で整理しているところが多いのは、後で中途半端な順番であることに不満が出ないように、というのもあります。

【田岡委員長】

わかりました。五十音順にしましょう。

【事務局（吉岡主任）】

ありがとうございます。

続いて、最後の年表の部分についてです。年表の出典、参考文献についてですが、ほとんどが石狩市年表からであるものの、それ以外の本に書かれていることも拾っているので、統一するのが少し難しいです。これについては基本的に、出典の原文のまま載せることとしました。例えば、版年や年号が参考文献によって異なる点についてご指摘もいただきましたが、あくまで参考文献のままにしています。

【工藤委員】

参考文献が何か、というのが書かれているのであれば、原文のまま、というのは付けない方が良いでしょう。聞かれた時に、どこから取ったかをお伝えするという形で良いと思います。

【事務局（吉岡主任）】

承知しました。ご相談したかった点については、私の方からは以上となります。

次第3 議題（2）石狩叢書第4巻の発刊までのスケジュールについて

【事務局（工藤副館長）】

私の方からスケジュールについてご説明します。叢書第4巻の発刊までのスケジュールについてですが、明日、最終校が届きます。到着次第、皆様にお配りいたしますので、誤字脱字を含めて詳細までご確認をお願いいたします。1月23日（金）までに編集業者へ原稿を提出する必要があるため、期間が大変短いですが、21日（水）までにご確認をお願いいたします。なお最終校となりますので、大幅な変更はできないことをご承知おきください。その後、印刷製本に関わる契約を経て、3月下旬に納品、発刊となります。

【事務局（吉岡主任）】

図が増える等は厳しいですが、例えば先ほどの地図上のルートの変更は直していただければと思います。

原稿が明日の午後に到着し、打ち合わせを挟んで夕方あたりに皆様に原稿をお渡しできるかと思っています。話し合った内容を反映させた形でお配りいたしますので、本日の内容が反映されているかというのを含めてご確認いただければと思います。

次第3 議題(3) その他

【田岡委員長】

皆様に当編集委員会のあり方や次の作品も含めてどうするかというお話をさせていただきます。まず、次巻で石狩川に挑戦したらどうかという、壮大で数倍の労力が要するような形に挑戦したらどうかとの声がありましたが、私自身の年齢を考えると、これからおそらく数年を要する作業に対して覚悟が固まっていません。やめるというわけではなく、一度時間を挟んで戦力を整えるというところから始めていかないと、次の段階に進めないのではないかと思います。

今回については、職員個人への負担が非常に厳しい状況でした。今の体制で従来のやり方のまま続けていくことは、極めて困難だと理解しています。各々自らの年齢を考えつつ、この大きな挑戦に臨むかどうかということを含めて、忌憚のないご意見を聞かせていただければと思います。

この段階で話題に出したのは、来年度予算に向けてということもありますが、今回の仕事で、私個人としては区切りをつけたいと思っていました。また、今までやってきたことについては、私はそれなりに評価されるものだと思いますが、今の体制については、職員の手当を出すなどの事務費等も含めて考え直す必要があると思います。

今すぐ決める話ではなく、この4巻目を作る過程の中でもう一度皆さんと集まる際に最終的な結論を出すとして、今の心境だけでもお聞かせいただければと思います。

【石橋委員】

細かな方向性の違いはあるものの、他の同様の委員会や個人的なもの、協賛も含めて、抜けの無い体制を取っているところが多いと思います。もし次に石狩川に関する叢書に挑むとなると、内容的には石狩市内で済む話ではないです。

【田岡委員長】

普段の仕事をしながらだと、このような短期集中的な業務はどうしても個人に負担がかかるのが現状で、また、石狩川のような数年かかる事業になるのであれば、後継者を探す必要性も含め、全体について話したいです。

【工藤委員】

事務局に色々な本業がある中で負担があるというのは理解しています。石狩川というテーマで取り組むとすると、編集委員会としても、自分自身でもイメージがうまく持ていないので、色々と構成を考えることが必要かもしれないです。

【志賀委員】

編集発刊委員会、という方向性を定める委員会があっても良いとは思いますが、それと別に編集の実働部隊をさらに充実させるべきだと思います。現状、今までずっと図書館職員の内1人や2人だけで編集していますから、職員を増やすのか、委員会のような形か分かりませんが、編集業務にもう少し力を入れる体制が必要かだと思います。

【村山委員】

私自身は今回原稿を書いていないのですが、やはり原稿を書く人がどれほど揃うか等、大変だと思っています。目処があればテーマを変えて継続しても良いかと思いますが、それが難しければ、一つの考え方として一休みするという選択肢もあると思います。今回は書き手がたくさんいましたが、次のテーマの時にどれほどいるかが課題だと思います。

【三島委員】

皆さんのおっしゃっていることは分かりますが、せっかく叢書という形で4巻まで出たのであれば、編集のやり方や作り方を変えて、職員の増員や予算の増額、編集をする人の用意などを用いて続けていけたら良いと思います。私個人としては今回限りで降りようと思っています。編集委員の他に筆者を雇うということはできませんか。

【事務局（工藤副館長）】

来年度予算に執筆料金を計上していますが、まだ予算編成中のため確定はしていません。職員の体制については、今回は吉岡さんがメインで校正をほぼ全て行っていた状態で、一人の負担がかなり大きかったというのが現実です。吉岡さんもこれからずっと図書館にいるとは限らず、図書館に初配属となった人がいきなり取り組むのは難しいと思います。昨今は人をできる限り減らすこと、ICTを使った効率化を必要とされる中で、叢書の作成のために人員を増やすことができるかどうかについては確認していませんが、そのような配置は難しいと感じています。例えば、市の施策として作るために人を割り当てることとなれば動きやすいと思いますが、やはり図書館の日常業務を行いながら秋から年明けまで吉岡さんが関わっていたというところがありますので、事務局としては職員の体制が整ってからということで、村山先生のおっしゃるように一休みというのも選択肢としてあると思います。

【三島委員】

正直なところ、そもそもこのような事業は図書館ではなく、普通は総務課等で行うはずです。

【事務局（伊藤館長）】

元々総務で行っていたのですが、総務でもう一度組織しようという議論は今のところ無いです。例えば石狩川をテーマにして叢書を出すという政策的な考えがまとまれば、予算や人員体制に関しても議論されることとなりますが、今の時点で、既に来年度に向けた人事や予算編成が動き始めているので、令和9年度になるのか10年度以降になるか分からないものの、必要があれば検討する考えはあります。

壮大な石狩川をテーマにした叢書に取り組むのか、あるいは別のテーマにするのか等の議論は、1年、2年かけてもいいですし、この叢書委員会の中で検討していけば良いかと思っています。メンバーが変わっても、体制を鑑みて、できるものを作っていくことが現実的かと思っています。

【田岡委員長】

議論の場は残すが、本の発行に向けての編集作業については、一度今の体制を見直そうということでしょうか。

【事務局（伊藤館長）】

体制も含め検討する必要があると思います。大きさが全くイメージしきれていませんが、内容によってはおそらく相当の時間や労力がかかるのだろうと考えています。

【田岡委員長】

やはり仮に石狩川に挑戦するのであれば、より若いメンバーで数年かけるにしても、完全に編集役となるような事務局委員長が一人いない限り進まないと思います。また、志賀委員が多くの原稿を出してくれたことも大きいと思います。志賀委員と話したところ、やはり未練はあるが、この体制では事実上無理ではないかとの話でした。皆様の意見を聞いた上で、図書館とも調整しながら、最終的にこの叢書が出来上がる頃までには、一度方向性を出していきたいと思っておりますので、今日の意見を参考にしながら、体制のあり方を含めて説明させていただければと思っております。

本日の予定案件は以上です。これにて閉会いたします。皆様、お忙しいところありがとうございました。

令和8年2月11日 議事録確定

石狩市教育委員会叢書発刊編集委員会 委員長